

**WEEKLY SIGNAL**

平成27年3月6日(金) 1265号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	3/9(月)	3/10(火)	3/11(水)	3/12(木)	3/13(金)
無担保O/N			0.030%	0.125%	
銀行券	+ 1,400	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 8,500	△ 4,000	+ 2,000	△ 3,000	+ 6,000
資金需給	不 7,100	不 3,000	余 2,000	不 3,000	余 5,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M) 交付税特会借入・償還		源泉税揚げ	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 CP買入 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,000	国債買入 + 10,300	CP等買入 + 5,000		
(日本)	メルケル首相、来日(10日まで) GDP(10-12月期改定値) 国際収支(1月) 貸出・預金動向(2月) 企業倒産(2月) 景気ウォッチャー調査(2月)	マネーストック(2月) 工作機械受注(2月)	機械受注(1月)	マネタリーサーベイ(1月) 対外対内証券売買(前週分) 営業毎旬報告(3月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	
(海外)	欧 ECB、量的緩和開始 欧 ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル)	米 卸売在庫(1月) 米 求人件数(1月) 欧 EU財務相理事会 (ブリュッセル)	米 MBA住宅ローン申請指数 (6日終了週) 米 月次財政収支(2月) 米 FRB、銀行の資本計画の 審査結果公表	米 新規失業保険申請件数 (7日終了週) 米 小売売上高(2月) 米 企業在庫(1月) 欧 ユーロ圏鉱工業生産(1月)	米 生産者物価指数(2月) 米 シガン大学消費者 マインド指数(3月速報)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.160

**<インターバンク>**

当座預金残高は週初、182兆5200億円で始まり、4日は税揚げにより180兆2000億円で減少しものの、週末には国債買入を主因に残高を戻し、182兆5600億円で越週した。無担保コールON物は、週を通して0.075%近辺の狭いレンジでの取引が中心であった。5日の加重平均金利は、一部で試取りの動きが散見されたことで0.08%に上昇したものの、その他の日は週を通して0.075%での推移となった。ターム物は、1~2W物で0.11%台後半の出合が中心であった。また、期末を越える1M物では目立った動きは見られなかった。

4日、ECBは量的金融緩和について、9日から月600億ユーロの資産購入を開始し、少なくとも16年9月まで行うと発表した。

また、2015年のGDP伸び率の予想を従来の1.0%から1.5%へと上方修正した。一方、インフレ予想については0.7%から0.0%へと引き下げた。

来週の材料は、GDP10-12月期改定値(9日)、海外ではECBが量的緩和開始(9日)などが挙げられる。

**【オープン市場】**

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.090 ~ 0.095
TDB 3M	△0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

**<CP>**

今週は、入札発行額は約7,900億円で、期落ち額約9,600億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。情報通信系の大型案件が継続発行されなかったことで期落ち超となった。

今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台前半~0.100%台半ばと、ほぼ横這い圏内で推移した。期内物の発行は小幅上昇した。

現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約7,000億円となっている。

**<TDB>**

5日に国庫短期証券3M第516回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0020%(前回債0.0020%)、平均落札レートは△0.0004%(前回債△0.0024%)と前回債から利回りにほとんど変化はなかった。セカンダリーは3Mで0.000%近辺の出合い。6Mは△0.01%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週12日に3Mの入札が行われる予定である。

**<レポ>**

足許GCは週初0.05%近辺の出合から始まるも、その後は0.02~0.03%近辺での出合で推移した。また5日、6日には短国の入札が続いたもののレートが上昇することなく、0.01%後半~0.02%半ばでの出合となり越週した。また週にかけてSNと比べてTNでの出合水準が下がることが続き、TNでの出合が0%近辺となる日も見られた。

SCでは10y337が先週に引き続きON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。また買入オペの影響等により10年334回債のニーズがさらに強まり、ネガティブレートの深いところでの出合となった。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。